

教育課程・学習成果の検証

1. 研究科・専攻の教育課程について、院生の履修状況に対して開講科目数は適切か、非常勤講師比率は適切か、院生にとって体系的な科目編成となっているか等を検証

【検証結果（全体概要）】

高度な専門的知識や専門応用能力、研究能力を修得するため、講義、演習、実験・実習といった最も適切な形態による授業を組み合わせ、体系的な科目群が配置されている。大学院生の要求を満たすよう開講されており、各科目とも大学院生が履修している。非常勤比率は 1.7%と低く、常勤講師で十分に大学院生の教育をカバーできる科目編成となっている。

【成果および向上施策】

成果としては、各大学院生が研究成果にもとづき学術論文を発表し、審査を経て博士の学位を取得した。

【課題および改善施策】

専門性が要求される博士後期課程ではあるが、視野を広げるためにもう少し非常勤講師を呼ぶなど開講科目の幅を広げてもよいかもしれない。

2. 「大学院生アンケート」(<http://web.kyoto-wu.ac.jp/gakuseki/cat82/20210324132744.html>)等の資料を参考に、研究科・専攻の教育について、効果が挙げられている点、改善すべき点を検証

【検証結果（全体概要）】

人数が少ないため、博士前期課程と博士後期課程をまとめてアンケートとっており、博士後期課程のみの結果ではないが、おおむね教育についての評価は高い。また、新型コロナ禍下であっても、元々人数が少ない博士後期課程であることから、大人数の授業等もなく、不安なく少人数授業を受けてこれられたと思われる。

【成果および向上施策】

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし

3. 研究科・専攻として、教育の質向上・改善に向けた組織的な取り組み（FD）をおこなっているか。おこなっている場合、それはどのような内容か、どのような課題認識に基づくものか。

【検証結果（全体概要）】

授業アンケートの結果をもとに、問題点の確認を行っている。さらに、博士前期課程の各専攻で行われているFDを通して、教育の質向上が図られている。

【成果および向上施策】

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし

4. 教員組織の編成（採用・昇任等）にあたって、職位構成および年齢構成のバランスに配慮した編成をおこなっているか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。

【検証結果（全体概要）】

博士後期課程の教員については、研究科会議において、見識や教育実績をもとに担当が判断されている。大学院での授業担当者の審査を行うことにより、高度な専門的職業人や研究者を育成できる教員が授業を担当できるようにしている。学部組織の教員に準じて、職位構成や年齢構成のバランスがとられている。

【成果および向上施策】

2020年度までは、60～70歳代が大半であったが、2021年度に50歳代の教員も授業担当に加わったため、年齢構成が改善された。

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし